

新岡垣風土記

第420回

岡垣に初めて電灯が灯ったところ

岡垣歴史文化研究会 石田 健次

岡垣で初めて電灯が灯ったのは大正時代である。日本における電灯の歴史は、明治11(1878)年3月25日に工部

大学校(現東京大学工学部)の教師エルトソンらにより、電信中央局の開業祝宴会場にグローブ電池を使用してフランス製アーク灯を点灯したことに始まる。この日を記念して、毎年3月25日が電気記念日として定められた。

日本で最初の電気会社は、明治19(1886)年創立の東京電灯会社(現東京電力)である。同社は翌年1月に移動式石油発動機を使い、鹿鳴館で白熱電灯を点灯している。それまでの白熱電灯は外国製であったが、明治22(1889)年に藤岡市助が国産初の白熱電灯の製作に成功した。フィラメントは竹製であった。

九州では、明治24(1891)年7月に創立された熊本電灯会社

(九州電力の前身)が最初の電灯会社である。しかし、九州で最初

に、東京電灯が移動式発電機を持ち回して電灯の普及宣伝をした。その後、明治29(1896)年に博多電灯会社(後の東邦電力)が設立された。この後、九州では数多くの電灯会社が設立された。

岡垣では、大正4(1915)年12月に岡垣村全区に電灯を設置することが決まり、吉木区では大正7(1918)年1月から工事が始まった。同年3月14日に吉木

区、海老津区、高倉区で同時に電灯が灯った。岡垣で最初に電灯が灯った日である。日本で最初に電灯が灯った日から40年後のことであった。

岡垣町史には、吉木区に初めて電灯が灯ったころの様子が次のように記されている。



▲電灯の利便性を知らせる宣伝チラシ(「九州電力10年史」より)
●電灯は夕刻になると自然に灯る装置なのでマッチがいらない●掃除する手間がいらない●物に触れても火が移らず火災の心配がない●風により吹き消されることがない などと書かれている

「大正七年三月十四日(木)晴...今夜初めて電灯がついた。座敷が十六燭、台所が十燭、隠居が十燭、何処も明り煌々としている。顧みれば当区に初めて電柱を建てたのは一月五日、幹線を張ったのが一月十七日、各戸に電灯の取付けをしたのは二月一日で、自分宅等の組合は取付けが少し遅れて二月十四日なれど、点灯は海老津・高倉・当区を通じて一様に今夕からである。この電灯がついたので、仕事をすのに都合が良い。子供等も電灯がついたので、思わず夜更かしをしている...」(伊藤日記)

この日記の中に出てくる「燭」とは光度の単位のこと、蠟燭1本の光度からきている。

電灯が導入されるまでの一般家庭の照明は、主に石油ランプが使用されていた。この石油ランプは、使用中にガラス製のほやに煤がつくため、これを落とす掃除が必要であった。

このランプ掃除は、当時の子どもたちの日課となっていたが、電灯の導入により解放されることになった。